

# 議事録

会議名	開催日
第1回高知市子ども・子育て支援会議	令和6年7月31日(水) 18:30~20:30
出席者	
(委員) 有田会長, 井上委員, 伊野部委員, 田井委員, 西田委員, 神家委員, 吉川委員, 斉木委員, 中屋委員, 新谷委員, 宮地委員  (事務局) 大野部長, 和田理事, 阿部参事, 山中副部長 こども政策課 高橋課長, 母子保健課 植田課長, 子ども育成課 西内課長, 子ども家庭支援センター 高橋所長, 保育幼稚園課 宮地課長, 地域共生社会推進課 島崎課長, 障がい福祉課 大中課長, 教育研究所 越智所長 他	
欠席者	
(委員) 中西副会長, 沖田委員, 久万委員, 齊藤委員	

## 1 開会

こども未来部長あいさつ

新委員紹介

事務局紹介

## 2 議事

### 1) 第2期高知市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

#### ①評価に関する説明

【こども政策課から説明】

資料1~5, 10

【質疑応答】

なし

#### ②重点施策1 妊娠期から切れ目のない支援

「産後ケア事業」について, 母子保健課から資料5 (p3~12) をもとに説明。

【母子保健課から説明】

資料5 (p3~12)

【質疑応答】

(吉川委員)

産後の入院期間が短くなり不安を抱えたまま退院する方がここで情報を得ることは良いが今後, 通所型の利用者が増加すると既存の施設では対応できず, 断るケースが増えるのではないかと?

(母子保健課)

産後ケア事業に関しては全国的に見ると, 事業者数が間に合っていないが, 高知市に関して事業所数は足りている。訪問型は1か所, 宿泊型は4か所, 通所型は8か所あり, 産後ケア事業を開始した時と比べると数は増えている。現在通所型の利用者は増加傾向にあり, 1か月先でも予約できないという状況が起きつつある。更に効率よく利用できるように体制を整えていくことが課題である。

**(吉川委員)**

産後健診から産後ケア事業に繋がる事は良いことだと思う。1の施策の中で産婦には対応できているが、子どもたちへのフォローが十分にできていない。乳児検診だけでは弱いと思う。国は1か月の健診をし、その時に問題をしっかりと捉えるようにと言っている。また乳幼児1か月検診をするようになった時にどのように情報提供ができるのか。小児科医としては小児の事についても目を向けて欲しい。

**(母子保健課)**

昨年12月の国の補正予算で乳児の1か月児健診と5歳児健診を公費で対応できるため全国の市町村で実施してほしいと、国から示しがあった。高知市の乳児検診では現状、個別健診を2回受ける機会があるが、できれば今年度中には1か月健診が開催できる方向で検討している状況である。1か月乳児検診を実施する際には、小児科医療機関との連携が課題であると認識しているため、医師会等を通じて連携をとっていきたいと考えている。

**(有田会長)**

保育所などとは検診時に連携が取れているのか？

**(母子保健課)**

保育所との連携部分ですが、1歳6か月児健診と3歳児健診の幼児健診は国の法定健診として高知市も実施している。言葉の遅れや社会性については、子どもが普段の様子と異なることもあり、一度限りの健診では診察医が判断しかねるところもある。その場合は、健診時の言葉の相談等で言語聴覚士や心理士等が相談を受けることができる。そのうえでさらに、普段の子どもの様子を見ることを目的に園訪問を行っている。また、明らかに発達の遅れがある場合には、子ども育成課の子ども発達支援センターにつなげるための対応を行っている。このように様々なフォロー体制をとることで、健診後の子どもの健やかな育成につながるような支援を行っている。

**(有田会長)**

産後ケア事業は良いと思いますが必ず予約が必要なのか。

**(母子保健課)**

産後ケア申請書を提出いただいた後に利用決定を行い、通知書が手元に届いた時点から、3つの形態より利用したいものを選び、事業所と直接連絡を取っていただく仕組みとなっている。人気の通所型施設等はなかなか予約が取れないケースもある。

**(有田会長)**

社会全体で支援をしていかなければならない。産後ケアを中心に手厚い子育てをしている保護者が安心できる環境の整備をお願いしたい。

**(母子保健課)**

ありがとうございます。

**(宮地委員)**

認定こども園や幼稚園はどの様な扱いになっているのか。

**(母子保健課)**

幼稚園・認定こども園・保育所など乳児検診に来られた方が通っている全ての園に園訪問を行っている。

**(斉木委員)**

多様性の社会になってきた中で母子ばかりでなく父子へのフォローについて教えていただきたい。また、利用者の声は拾っているのか。利用者の声を制度見直し等に活用していただきたい。

**(母子保健課)**

保健師個別家庭訪問など高知市の色々な事業がある。最近では育児休暇中のお父さんも増えていると認識している。お父さんを含めた家族全体への支援も必要性を探っていき、支援を行っていきたいと考えている。また、利用者の声については、事業所がアンケートを行い、意見を集約したものを高知市へ報告してくれている。利用者の満足度は高いが、一方で、なかなか予約が取れなかった等の課題もあがっている。今後は利用者の声を分析したうえで、事業見直しを図る。

**③重点施策3 地域ぐるみの子育て支援のまちづくり・子育て支援体制の充実**

「地域ぐるみの子育て支援のまちづくり」「子育て支援体制の充実」について、子ども育成課から資料5（p13～24）をもとに説明。

**【子ども育成課から説明】**

資料5（p13～24）

**【質疑応答】**

**(吉川委員)**

とても良い事業だと思う。絵本はその場で渡すのか。種類があり何冊から選べるのか。

**(子ども育成課)**

絵本はその場で渡している。よちよちランドは3種類の中から1冊、よちよちランドプラスは2種類の中から1冊を選んでいただく。両方とも持っている方や3冊とも持っているという方には別の絵本を提供している。

**(吉川委員)**

本は予め何冊かを準備しておくのか。

**(子ども育成課)**

その通り。

**(吉川委員)**

いい事業だが、予算のいることなので現市長が言っているふるさと納税を活用できないのか。

**(子ども育成課)**

絵本については高知県の本との出会い推進事業があり2年程前から絵本を提供していただいております。高知市でも各方面から寄付をいただいている。そういったものを活用して絵本の購入費に充てている。

**(吉川委員)**

市民も協力しているという事ですね。折角、市が行う事業なのでふるさと納税など一石二鳥でやれば良いと思う。

**(こども未来部長)**

ご意見ありがとうございます。

**(有田会長)**

高知市は沢山いい事業をやっているが市民が知らないことも多いと思う。何らかの形でこの事業が広がるような取組をお願いしたい。

**(こども未来部長)**

受益者だけでなく市民全体にどのように広告するのかを検討したいと思う。

**(宮地委員)**

地域子育て支援センターの延べ利用者数の数字はどこから算出された数字なのか教えていただきたい。また、絵本の引き換え率の88%とあるが、産後ケア事業とリンクして100%にできないのか。

**(子ども育成課)**

目標数値については第2期の計画(P106(4))で決定している数字である。コロナ等を考慮せずに決定していたため、コロナによる影響で達成が難しかった。絵本の質問については他の市町村は生後4か月検診で絵本に出会う事業を行っているが、高知市は4か月検診がないため別の取組で行っている。地域と一緒に取り組んでいくということで、地域子育て支援センターでよちよちランドを始めたが、来ていただける方が少なかったため、90%以上の方が来られる、1歳6か月健診でよちよちランドプラスを実施している。今後、乳児への取組など変化や状況によって考えて行きたいと思う。

**(宮地委員)**

設定した数値目標が来てもらいたい願望なのか、子どもの人数の何割の数値目標にしたんだという根拠を知りたかった。絵本の目標を100%にするのであれば別の事業を活用して渡すことも可能ではないのかと思う。

**④重点施策4 児童虐待の発生予防**

「養育支援訪問事業」について、子ども家庭支援センターから資料5(p25~33)をもとに説明。

**【子ども家庭支援センターから説明】**

資料5(p25~33)

**【質疑応答】**

**(吉川委員)**

養育支援事業は手厚い支援だとは思いますが、もう少し軽度な支援を求めている人への支援はできているのか。その評価について教えていただきたい。

**(子ども家庭支援センター)**

今年度から始まった「子育て世帯訪問支援事業」のことかと思うが、現状できていないので、順次対応して行きたいと考える。

**(吉川委員)**

この支援を市が継続して行うのは負担が大きく難しいのではないかと、子ども食堂と連携する等どこか民間事業者等への繋げる必要があるのではないかと。想定はしているのか。

**(子ども家庭支援センター)**

まだそこまでは想定はしていない。この新しい制度自体を実施していただける事業者を増やすのが先と考える。

**(吉川委員)**

児童家庭支援センター高知みそので抱えている家庭には対応できているが、それ以外の家庭にはまだ対応できていない状況ということか。

**(子ども家庭支援センター)**

新しい制度に関しては、活用がまだできていない状況である。

**(吉川委員)**

新しい制度に関してはこれからのことであるということを理解した。

### (こども未来部長)

養育支援訪問事業については、過去からの継続であるため、広く浅く事業を実施している。新たな「子育て世帯訪問支援事業」の育児支援や家事支援についてはこれから進めていく必要がある。また、吉川委員がおっしゃられたように県が行っている子ども食堂との連携についても、県と連携をしながら検討していく必要があると考える。

### (吉川委員)

家庭に入られることに抵抗がある人が多いと思うが、高知みそのではその辺り上手くできているのか。

### (子ども家庭支援センター)

高知みそのが関わっていく必要のある家庭は、出産前から関係を築いているため上手く家庭に入っている。また新しい事業でヤンケアラー等に対応できると考えている。

### (有田会長)

支援者が保健師、保育士だけでは解決しないと思う。資料5P33の保育士等とある等とは他にどんな職種を考えているのか。

### (子ども家庭支援センター)

心理士や社会福祉士を想定している。

### (有田会長)

園で抱えている課題には、ひとつの分野のみで解決できないものがある。そのような場合は子ども家庭支援センターに言えば繋いでくれるのか。

### (子ども家庭支援センター)

月に1回は連絡会を開催しており、それぞれの連携のなかで必要なサービスは繋げることができている。問題があれば連絡をいただければ対応させていただく。

### (有田会長)

支援の必要な方について高知市の場合は子ども家庭支援センターに相談に行くようにお伝えすれば総合的な支援が受けられると考えて良いのか。

### (子ども家庭支援センター)

一つの窓口として紹介していただいて構わない。また、地域共生社会推進課が行う重層的支援体制整備事業では、多くの課題を抱えた世帯に対し多角的な視点での課題解決に向けた協議が可能である。

## 2) 第3期高知市子ども・子育て支援事業計画策定について

### ①スケジュールについて

【こども政策課から説明】

資料6

【質疑応答】

なし

### ②骨子案

【こども政策課から説明】

資料7

【質疑応答】

なし

### ③基本理念・基本方針・施策体系（案）

【こども政策課から説明】

資料 8

【質疑応答】

なし

### ④各論レイアウト（案）

【こども政策課から説明】

資料 9

【質疑応答】

（有田会長）

大変見やすくなった。保育所のための記載ではなく、幼稚園、認定こども園など全ての記載をお願いします。

### ⑤ その他ご意見・質問

（新谷委員）

各論レイアウトもわかりやすくて良いと思いますし、資料 8 の子どもの健康管理へ学校教育課と連携されたことは凄く良いなと思いました。全ての政策を把握するのは難しいが、支援が必要な方がいれば教えてあげられるようなわかりやすい広報をしていただくと宣伝もできるのかなと思う。

（西田委員）

重点施策の取組状況についてご説明いただいた児童虐待の発生予防については、ご家庭との連絡をとる対応が難しく、公立学校でも苦勞している。子ども家庭支援センターと普段から相談等させていただける関係づくりをしているため学校としては大変助かっている。今後とも高知市からの支援をいただきながら、子ども達の健全育成に努めていきたい。

（井上委員）

高知市で子育てを安心してできるように若い人に事業の広報をもう少し工夫してほしい。アピールしたもの勝ちなので他の自治体よりも頑張ってもらいたいし、若者の人口流出を防ぐ為にもいい施策をして欲しい。

（斉木委員）

良い事業なのでアピールをもう少し工夫してほしい。

（田井委員）

良い事業が多いが知らない事業も多いため、PR を頑張ってもらいたい。各所に来た方が各事業を認知できるようにしてほしい。

（中屋委員）

文書も校正もまとまっはいるが、なるだけ優しい言葉でポイントをしっかり押さえてみんなにわかりやすくしてほしい。

（神家委員）

産後ケア事業で予約して一か月も待つのは不安だと思う。新しい施策の方では思春期検診の方も心配していたが意見をすることもなく安心した。

**(伊野部委員)**

5年前の計画と見比べた場合、利用定員200人の保育所が毎年なくなっている。待機児童対策より教育保育施設が存続できる施策を考えて欲しい。今後5年は時代の変化に合わせて検討して欲しいと思う。

**(吉川委員)**

事業は沢山あるが、個人が知ってる事業の範囲は限られる。我々が相談を受けた際にはまずここへ相談すればワンストップでサービスが提供できるようになればいいと思う。現場との乖離を確認して現状把握に努めてほしい。常にレベルアップして行ってほしい。

**(宮地委員)**

事業の周知をどうするのか。例えば絵本を配るのであれば、目標数字達成（みんなに渡したい）のためには他の課との連携した方が配れるのではないか。対応実家庭数、特定妊婦家庭数など意味が市民にはわかりにくい、「●●等」など「等」が何なのかもわかりにくいと思う。文字を減らして図式にするなど丁寧に周知して欲しい。課の目標達成ではなく受益者の利益を優先した施策をお願いしたい。目標数値の積算の基盤がどこからきているのかを書くとうわかりやすくなると思う。

**(事務局)**

次回会議9月下旬を予定している。

**3 閉会**